

# 東京湾海況情報 13 - 13

東京湾水質調査結果(平成13年10月分)  
& のり漁場環境調査結果(9月27日分)

平成13年10月9日  
千葉県水産研究センター 富津研究所  
〒293-0042 富津市小久保3091  
0439-65-3071 FAX 0439-65-3072

資料：水質調査(10/3 内房海域：第2ふさみ丸, 10/1 東京内湾：わかふさ)  
内湾底びき網連絡協議会・東京都環境局・千葉県環境研究センター・ふさなみ観測資料  
一都三県漁海況速報, 東京湾口海況図

## 東京湾水質調査結果(平成13年10月分)

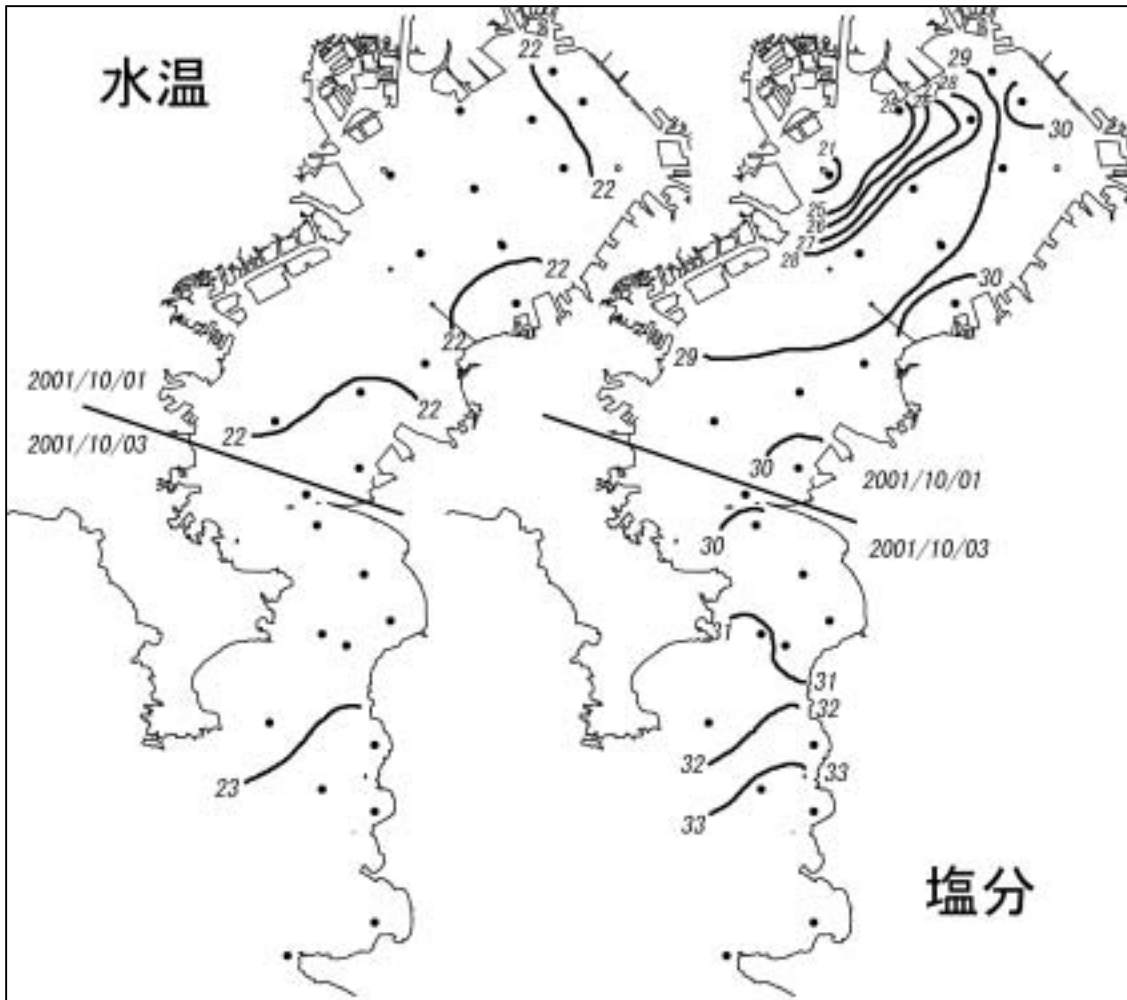


図1 表層の水温・塩分分布

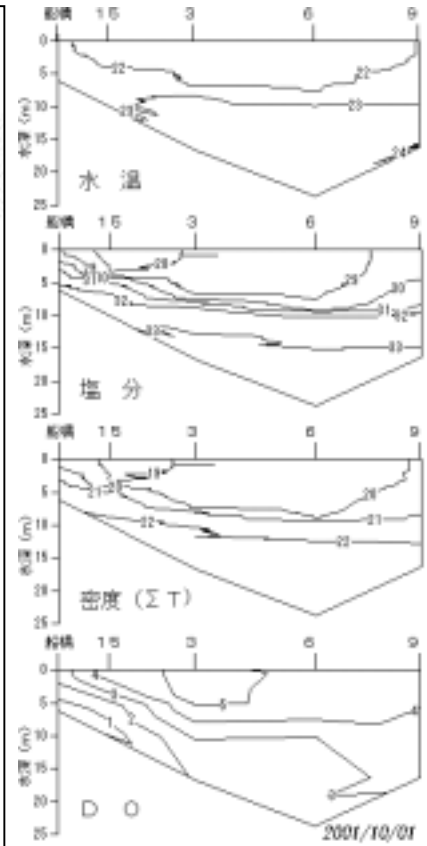


図2 内湾縦断面の鉛直分布

水温・塩分の状況(図1~3, 表1)

表層の水温は21~23(平年よりやや高め), 塩分は20~33でした。内湾縦断面の鉛直分布では水温21~24, 塩分27~33でした。水温は上下が逆転しました。内房海域の鉛直分布では水温19~23, 塩分30~34でした。

赤潮の状況(表1)

9月27日の時点では内湾の北部で赤潮が発生していましたが, 今回赤潮の発生海域はありませんでした。

主なプランクトンは渦鞭毛藻のノクチルカ(*Noctiluca scintillas*), ギロディニウム(*Gyrodinium sp.*), 珪藻のキートケロス(*Schaetoceros sp.*)などでした。

27日の赤潮時の主なプランクトンは珪藻のタラシオシーラ(*Thalassisira sp.*), スケルトネマ(*Skeletonema sp.*)でした。

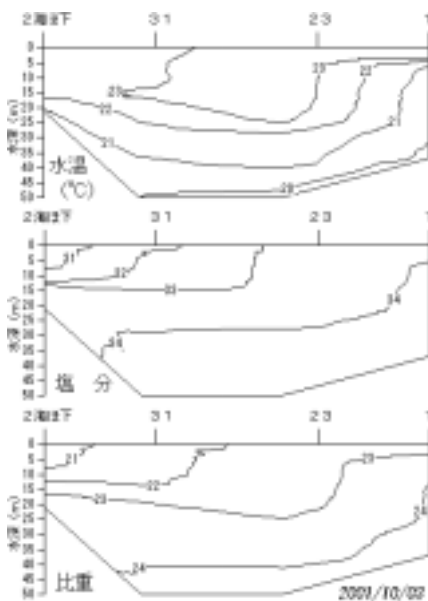


図3 内房海域の鉛直分布

訂正のお詫び

前号(13-12)の潮位の上昇欄の「・・・内湾(芝浦)で366cmまで潮位が上昇しました。」は「・・・内湾(芝浦)で309cmまで潮位が上昇しました。」の間違いでした。お詫びして訂正させていただきます。

貧酸素水塊の状況 (図2, 4, 表1)

9月下旬にほぼ解消していた貧酸素水塊は内湾北部を中心に分布していました。とくに9月30日からの北東風により観測時は湾奥で表層にも貧酸素水が分布していました。注意してください。

上下の水が混合したことから今後は貧酸素水塊は解消するものと思われます。

水産研究センターでは2.5 ml/L (酸素飽和度約50%)以下を貧酸素水としています。漁業種類によってはそれ以上でも影響がでる場合もありますので注意してください。

表層の栄養塩類 (表1)

溶存無機態窒素 (DIN) は内湾で200~1000以上  $\mu\text{g/L}$  (平均350  $\mu\text{g/L}$ , 平年より少なめ), 内房で50~360  $\mu\text{g/L}$  (平均200  $\mu\text{g/L}$ ), リン酸態リン (PO4-P) は内湾で20~80  $\mu\text{g/L}$  (平均40  $\mu\text{g/L}$ ), 内房で1~36  $\mu\text{g/L}$  (平均17  $\mu\text{g/L}$ ) でした。

黒潮の動き (図5)

黒潮は房総半島の東側を離れて北上しています。東京湾口部への影響はありません。

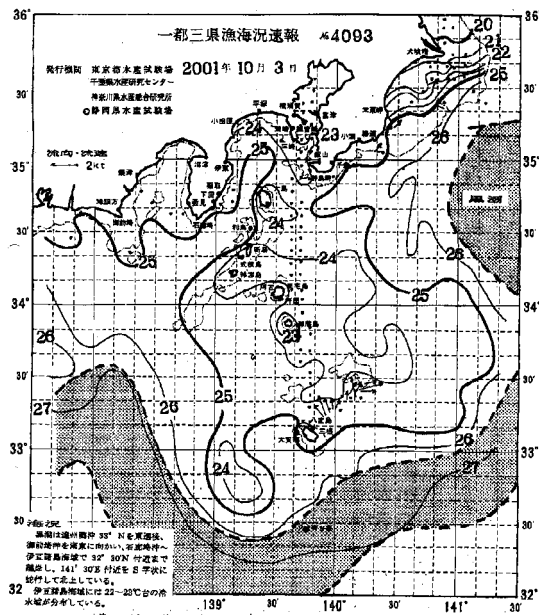


図5 黒潮の動き  
(一都三県漁海況速報, 10月3日分)

観測日記

- 10月1日13時ごろ調査点「浦安」からst. 15に移動中, スナメリを目撃しました。船の近くで3回背中が浮上したのを本船で確認しました。背びれがないことからスナメリだと思われます。

東京湾情報ボックス

- 10月1日, 浦安~船橋沖でスナメリ目撃 (水産研究センター)

スナメリを目撃された方いらっしゃいましたら水産研究センターまでご連絡ください。  
お願いします



図4 底層の溶存酸素量分布  
(ml/L, 観測日, 観測機関は図中に表示)

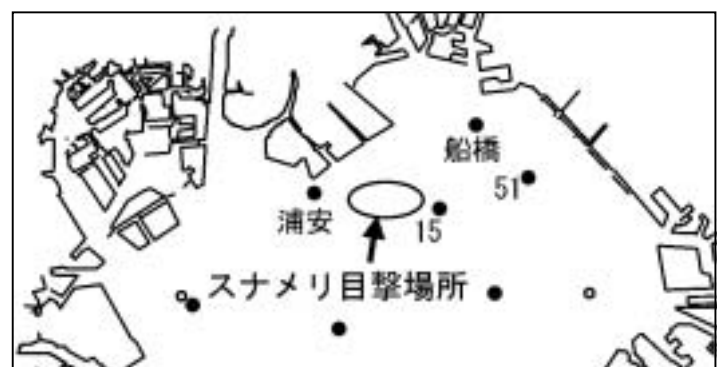


表1. 水質調査結果(表層)

調査点	透明度	水温	塩分	pH	DO(底層:ml/L)	溶存無機態窒素(μg/L)	リン酸態リン(μg/L)	アンモニア態窒素(μg/L)	クロロフィルa量(μg/L)
内湾海域(10月1日)	船橋	2.5	22.3 (21.1)	29.05 (28.22)	7.8 (8.3)	0.4 (3.5)	481 (617)	84 (65)	168 (253)
	St. 15	2.1	21.1 (21.0)	27.57 (29.13)	8.2 (8.3)	0.6 (2.3)	301 (464)	33 (31)	75 (68)
	st. 3	2.5	21.6 (21.2)	28.09 (27.64)	8.4 (8.3)	2.1 (2.2)	307 (517)	12 (29)	62 (62)
	St. 6	3.8	21.7 (21.2)	28.39 (28.31)	8.4 (8.3)	2.5 (2.5)	307 (476)	21 (30)	73 (67)
	St. 9	4.5	22.0 (21.2)	29.57 (29.34)	8.2 (8.3)	3.3 (3.5)	256 (415)	24 (25)	30 (48)
	盤洲Cブイ	5.1	23.0 (21.9)	30.27 (30.44)	7.9 (8.2)	2.4 (3.3)	380 (358)	65 (30)	84 (51)
	St. 8 (盤洲Aブイ)	3	22.0 (21.1)	29.72 (29.97)	8.0 (8.2)	2.9 (3.0)	261 (382)	35 (33)	50 (55)
	富津ベタ	4.7	22.3 (23.0)	30.77 (29.20)	8.1 (8.4)	3.4 (3.2)	213 (212)	27 (8)	31 (38)
内房海域(10月3日)	第2海ほ下	10	23.0 (21.3)	30.49 (30.36)	8.3 (8.3)		270 (369)	36 (30)	62 (59)
	st. 31	15	22.5 (21.6)	31.51 (31.19)	8.3 (8.3)		241 (283)	17 (23)	40 (35)
	st. 23	14	23.8 (23.0)	33.23 (33.59)	8.4 (8.3)		52 (77)	1 (9)	7 (23)
	st. 1	9	23.7 (24.4)	33.09 (33.66)	8.7 (8.3)		67 (45)	1 (6)	8 (19)
	St. 10 (下洲沖)	9	22.6 (21.4)	30.26 (31.14)	8.4 (8.2)		311 (291)	29 (25)	54 (42)
	St. 12 (湊沖)	10	22.8 (21.5)	30.97 (31.31)	8.3 (8.3)		248 (253)	13 (21)	54 (39)
	St. 22 (保田沖)	14	23.7 (22.8)	32.91 (33.16)	8.4 (8.3)		164 (106)	19 (9)	44 (25)
	St. 24 (富浦沖)	13	23.8 (22.9)	33.33 (33.73)	8.4 (8.3)		69 (72)	8 (8)	12 (25)
St. 26 (館山湾内)	14	23.5 (23.0)	33.45 (33.66)	8.3 (8.3)		77 (66)	9 (8)	19 (24)	

( ): 過去10年間の平均値(ただし富津ベタは昨年1年分)  
 透明度, pH, クロロフィルa量の網掛けは赤潮, DOの網掛けは貧酸素水の基準に達していることを示しています。

のり漁場環境調査結果(9月27日分)

表2 のり漁場環境調査結果

9月27日	透明度	pH	水温	塩分	現場比重	15換算比重	溶存無機態窒素(μg/L)	リン酸態リン(μg/L)	アンモニア態窒素	
船橋	0.5	9.0	23.5	25.60	16.68	18.79	185	17	14	濃い赤潮
st. 15	0.8	9.1	24.8	22.00	13.60	16.03	671	16	16	濃い赤潮
盤洲Cブイ	1.5	8.7	23.4	27.94	18.48	20.58	107	12	20	赤潮
盤洲Bブイ	1.5	8.4	23.9	29.49	19.51	21.76	17	10	12	赤潮ぎみ
st. 8	1.7	8.5	23.7	27.78	18.28	20.45	214	9	13	赤潮ぎみ
富津ベタ	3.2	8.3	23.0	28.27	18.84	20.83	248	6	10	
1海ほ下	3.2	8.1	22.8	30.47	20.55	22.51	166	8	10	
下洲ベタ	4	8.1	22.6	30.63	20.73	22.64	251	22	14	
大貫ベタ	5.1	8.1	22.2	30.26	20.56	22.35	344	32	28	
湊ベタ	2.3	8.2	22.5	30.91	20.97	22.85	111	12	18	

昨年まで調査行程の都合で木更津から内房海域の範囲を調査していた「のり漁場環境調査」でしたが,今年度から調査点を整理し,北部地区を含めた10定点で調査をおこなうことにしました。

参考 のり漁場環境調査点図

